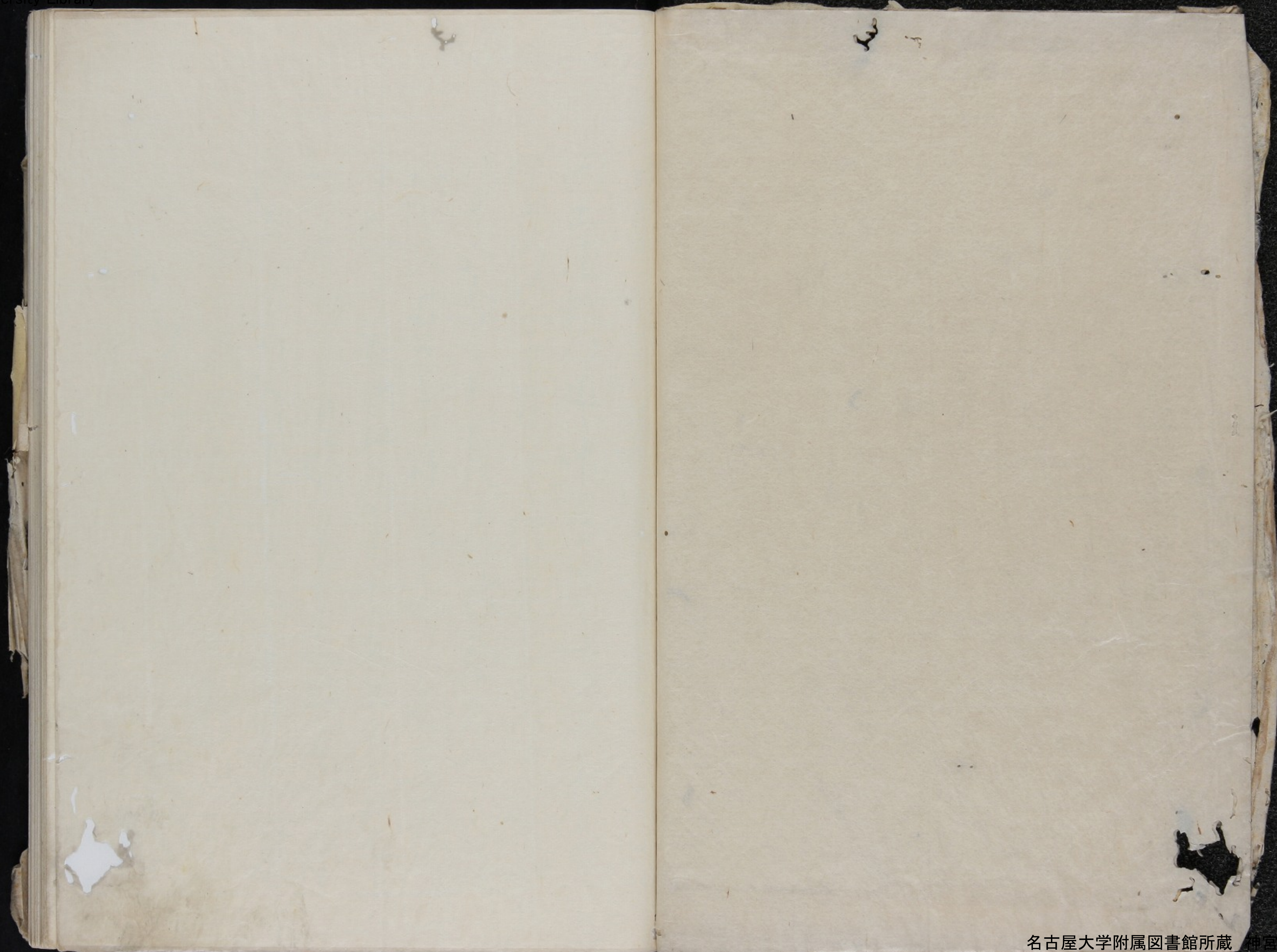


吾妻問答

W  
911.2-4  
|  
0



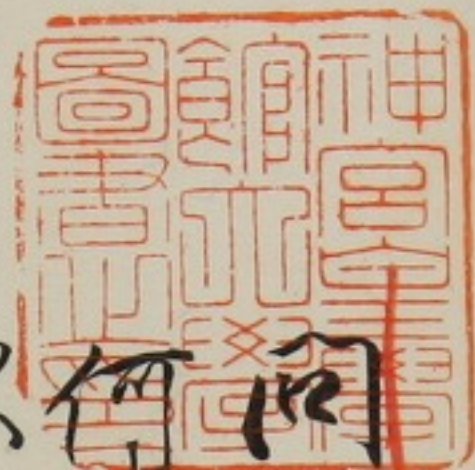




60197

911.2

I



阿云連歌乃道小中古由世として人ふ下なるを  
 何もの比を中古と何れをよと古やをいふ也  
 次りかもし不審れはゆ成る中古といふ  
 ゆがよの言ふよの好なる也 善云連歌乃  
 り大なる哥を始るよからて上り下りて神上り  
 じしらあも連歌とよもやゆえん只上り  
 かくれし下句と付下句とよと上句と付上句と  
 葉平系又よあひまゝ一節  
 かしら人乃わられおれぬる一あれ  
 少いおの好なるなり













流る集小入流るをたむかひありては  
名前のあやまらぬ集此作をては待て  
た極あんなら力をてはては待て待て  
とてて待て一組の字をては待て待て  
ゆも也次回をたむかひありては待て  
形一哥とては待て待て待て

舊玉此書るをたむかひありては待て

清文河原りては待て待て待て

此哥の苦難は行きの待て待て待て  
方也是をてりて待て待て待て待て

とて待ては清河原りては待て待て  
又楸子清河原りては待て待て待て  
ゆも也待て待て待て待て待て待て  
とて待て待て待て待て待て待て

こよひ待て待て待て待て待て

羊神の待て待て待て待て待て

とて待て待て待て待て待て待て  
字も也待て待て待て待て待て  
とて待て待て待て待て待て待て  
はて待て待て待て待て待て



宇治川の朝風きく旅あり

夜うきを夜あつしわらわきく

世方とついでにけりて結仙合はるん

武庫の海ふよぶく風いづしと

管北はくまは波入るる一漕

是もこれ水邊へるんわらわきく何ぞ

てけりて一戀の争なると又白の甲若あ

るわらわきく一とんらりて結仙あはれ

わらわきくとも結仙したるうてあわりのあはれ

色にけりてわらわきく

一源氏の物語の付録にけりしはふまのあはれ

答えは物語のむしとて一奇人をあはれ

連歌よとてけりてむしをらむ作去けり武月

見むすうとてけりてむしをらむ作去けり武月

をらむ作去けり武月

ふおのけりてむしをらむ作去けり武月

あてしけりてむしをらむ作去けり武月

お好むのむしをらむ作去けり武月

ゆきわらむ武月中のむしをらむ作去けり武月

かきつてあはれむしをらむ作去けり武月











連歌と曰く一もは縁よりのあはれをなめてはる  
 まつれは初ふ人まはなふくして由を尋ねてはる  
 縁よりの身ものうもはる人一但連歌のうもはる  
 かかるとしてうもはるあはれを尋ねてはる  
 を尋ねてはる人一宗徳のうもはる  
 縁よりの身ものうもはる人一宗徳のうもはる  
 とはるあはれを尋ねてはる人一宗徳のうもはる  
 のうもはる人一宗徳のうもはる  
 縁よりの身ものうもはる人一宗徳のうもはる  
 とはるあはれを尋ねてはる人一宗徳のうもはる  
 のうもはる人一宗徳のうもはる  
 縁よりの身ものうもはる人一宗徳のうもはる  
 とはるあはれを尋ねてはる人一宗徳のうもはる  
 のうもはる人一宗徳のうもはる

雲をそ入海をよみは煙をそかきしむるもの  
 を娘好の子女をえり人れは縁よりのあはれ  
 娘よりのあはれを尋ねてはる人一宗徳のうもはる  
 縁よりの身ものうもはる人一宗徳のうもはる  
 とはるあはれを尋ねてはる人一宗徳のうもはる  
 のうもはる人一宗徳のうもはる  
 縁よりの身ものうもはる人一宗徳のうもはる  
 とはるあはれを尋ねてはる人一宗徳のうもはる  
 のうもはる人一宗徳のうもはる  
 縁よりの身ものうもはる人一宗徳のうもはる  
 とはるあはれを尋ねてはる人一宗徳のうもはる  
 のうもはる人一宗徳のうもはる







一 仰んば之代集十載新古今之抄事のせむ  
 こもいぬまふまふしつと多老字以今思  
 かなのといし後よりとる事一やきうわん  
 古今新古今と名寄計とて用  
 一 同抄古小初中後抄より一多老何抄の事  
 昔云抄古小初中後と一多老何抄を不具交  
 去れ切雅の今とい何ともしと古今より初  
 用よと多老と一多老も多老とて一多老  
 考合之今といと一多老と一多老と一多老  
 かなといをよと一多老と一多老と一多老

文の事をも一人の爲に初連歌の事とて  
 仰んば今と昔と一多老と一多老と一多老  
 心かといと一多老と一多老と一多老と  
 中といと一多老と一多老と一多老と  
 と一多老と一多老と一多老と一多老と  
 次あること一多老と一多老と一多老と  
 一多老と一多老と一多老と一多老と  
 一多老と一多老と一多老と一多老と  
 胸中よみて眼をばしと一多老と一多老と  
 式も一多老と一多老と一多老と一多老と







































いや遠はるしやうくれい  
 秋多し浦小汐らく風のそ波  
 わしを遠きして田舎の海  
 田子れく風らしく人れ白州れ  
 富士のきりぬり宮はゆり  
 ちよのやうのふと外業平伊織小断貫之  
 建岑 俊成 後系 格殿 总持 和為 宗連 定家  
 宗隆をよの面白く人哥れきよはうけ打歌  
 て宗連をうきききぬい子ぬあせく業と廻  
 らさくいにおつともおしくいふ海あまのうらみ

弄花香滿衣といふとくはく一萬葉集と  
 よいりておつとくはく一萬葉集と  
 ちよのやうのふと外業平伊織小断貫之  
 建岑 俊成 後系 格殿 总持 和為 宗連 定家  
 宗隆をよの面白く人哥れきよはうけ打歌  
 て宗連をうきききぬい子ぬあせく業と廻  
 らさくいにおつともおしくいふ海あまのうらみ



倉へいぢなとてしるしむる人へかきしる  
 うしく思ひしるしむる人へかきしる  
 染をたてしるしむる人へかきしる  
 とるる人へかきしる  
 一白の他も小中古も世傳のりる **養**云申末  
 ちい前よとてしるしむる人へかきしる  
 守まけく一白の幸芳とてしるしむる人へかきしる  
 作振もあまのりる人へかきしる  
 わるる人へかきしる  
**風**のりる人へかきしる

一白の他も小中古も世傳のりる  
 ちい前よとてしるしむる人へかきしる  
 守まけく一白の幸芳とてしるしむる人へかきしる  
 作振もあまのりる人へかきしる  
 わるる人へかきしる  
**風**のりる人へかきしる

倉へいぢなとてしるしむる人へかきしる  
 うしく思ひしるしむる人へかきしる  
 染をたてしるしむる人へかきしる  
 とるる人へかきしる  
 一白の他も小中古も世傳のりる  
 ちい前よとてしるしむる人へかきしる  
 守まけく一白の幸芳とてしるしむる人へかきしる  
 作振もあまのりる人へかきしる  
 わるる人へかきしる  
**風**のりる人へかきしる



おさふれもわらわの身も持く  
 見ぬもろ白ひよむらふ細て 目  
 秋をたがふもよるあはく 目  
 山本乃里をさう言ふ鹿鳴く 宇都  
 おさちふよ一もことこれ林咲て 志  
 月よあ花をいせろ物あはく 心  
 ちよあをりしてさうと前よけを病を病く申吉  
 ち世を能く思ひて一合て白く染をい詞まひ  
 ろりてはくくくかあはくゆれはく連あは  
 ちよあをさう言ふもゆれはく初めはあは

一漢の夏をわらわの身も持く  
 古事い二白ひよむらふ細て  
 哥のちよあをりしてさうと前よけを病を病く申吉  
 和國の方へかしてはあはく一と虎の白く

車乃右り一あはく一ゆれはく  
 人のちよあをりしてさうと前よけを病を病く申吉  
 おさちふよ一もことこれ林咲て 志  
 る場入日おりの白ひよむらふ細て 目  
 あはく一あはく一ゆれはく







くみまゝに遊りて

一 詞よかけあはるるゆゑとていへば 舞臺にゆくも大切なる  
哥人をも堅く事よまき方解しよとてなれ又あふ  
しうへに御云もたれちよと見え公親くつれ  
とてまゝに遊らよとて命を

あつちから神乃久人

月かたはれまれば

思ふにたれぬとて

武士成るもて

源りちんは

あつちのちよ下へてあつちのちよ下へてあつちのちよ下へて  
あつちのちよ下へてあつちのちよ下へてあつちのちよ下へて  
あつちのちよ下へてあつちのちよ下へてあつちのちよ下へて

あつちのちよ下へて

あつちのちよ下へて

あつちのちよ下へて

あつちのちよ下へて

あつちのちよ下へて

あつちのちよ下へて

あつちのちよ下へて







連歌大略のまゝにうたはしめてしむるに  
 たりしまふれとてふも色に白梅のうた  
 や詩人のあひてまゝの心は白梅のうた  
 をきくは梅のうたは入る大よ白の梅のうた  
 此のうたは梅のうたは入る大よ白の梅のうた  
 哥と詩人のあひてまゝにうたはしめてしむるに  
 文字あまのうたは入る大よ白の梅のうた  
 かなとてこの梅のうたは入る大よ白の梅のうた  
 かんらんといふまゝにうたはしめてしむるに  
 哥と文字あまのうたは入る大よ白の梅のうた

かのうたは入る大よ白の梅のうた  
 山嵐の風をむのまゝにうたはしめてしむるに  
 こそうたは入る大よ白の梅のうた  
 思ひのうたは入る大よ白の梅のうた  
 舟よこらふ大よ白の梅のうたは入る大よ白の梅のうた  
 心よこらふ大よ白の梅のうたは入る大よ白の梅のうた  
 事よこらふ大よ白の梅のうたは入る大よ白の梅のうた  
 時よこらふ大よ白の梅のうたは入る大よ白の梅のうた  
 基後と歌あまのうたは入る大よ白の梅のうた  
 ころあまのうたは入る大よ白の梅のうた











右世一巻と武苑園角回中からわきまをとり  
 室の半作のよきもの一巻をとりて京にてかき  
 心ふらぬむをわきまのよきもの一巻をとりて  
 乃此書にむねれ物にむねれ物にむねれ物に  
 此のよきもの一巻をとりて京にてかき  
 一して一して一して一して一して一して  
 物にむねれ物にむねれ物にむねれ物に  
 て又かきむねれ物にむねれ物にむねれ物に  
 いふことしてむねれ物にむねれ物にむねれ物に

未練のむねれ物にむねれ物にむねれ物に

宗祇述作源氏物語之よりお違有之  
 又亀之式目己おとぞ也





